



文化財登録シンボルマーク

文化財登録シンボルマーク

このシンボルマークは、ひろげた四方の手のひらのパターントによって、日本建築の重要な要素である斗拱(組みものの)のイメージを表わし、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。

国見町発掘調査速報（第3号）2005.03

多比良地区園場整備関連

じゅうぞのい せき はっくつちょうさ 十園遺跡の発掘調査 2



十園遺跡で見つかった大型建物（掘り込まれた穴の列が建物の柱部分）

2004年～2005年の調査成果

長崎県国見町教育委員会

★★★ 発刊に当たって ★★★

○本冊子は国見町多比良所在の十園遺跡発掘調査に関する簡易な解説を目的としています。

○内容は多比良地区町営圃場整備事業に伴い平成14・15年に行った発掘調査の成果です。

○本冊子に関する問い合わせは国見町教育委員会までお願いします。

じゅうぞの いせき はっくつ りゆ 十園遺跡発掘の理由

★国見町には百花台遺跡や高下古墳などたくさんの遺跡があります。「遺跡」とは、私達の祖先が暮らしていた当時の、住居跡や生活用具（土器や石器）及びお墓などが発見される場所、すなわち「私達の祖先が暮らした痕跡が残されている場所」のことです。この「遺跡」から発見された「土器・石器・住居跡・お墓」などは、私達の祖先の歴史そのもので、ひいては現在生きている私たちの歴史でもあります。発掘調査を行うと私達がどのような歴史をたどって現代まで生き抜いてきたかがわかります。このような「遺跡」は大切な歴史遺産であり、私達みんなの財産といえるでしょう。国見町では「遺跡」が存在する場所で、しばしば開発工事が行われます。今回の十園遺跡の調査は、圃場整備事業の工事によって遺跡の一部が消滅してしまうために、その部分の調査を行って、私達がどのようないくつかの遺跡の内容を記録するため、土器や石器などを発掘しました。したがって、工事を行っても遺跡が消滅しない部分については、現地にそのまま遺跡が残ることになります。発掘調査を行った部分は遺跡全体の数 %であり、まだまだたくさんの祖先の歴史が地中に保存されているのです。

発掘調査の基本

★右の写真は、遺跡の土層断面です。色の違う土が何枚も重なっているのが判ります。土の色は、土が堆積した時代によって異なり、発掘はこの色の違う土層ごとに調査を行います。この土層は、下のものほど古く、上の土層になるにつれ新しくなる特徴があります。したがって、各土層に含まれる土器・石器・住居跡の時代の新旧関係も、土層の重なりを見れば一目瞭然というわけです。



★左の写真は、建物の柱を調査中の様子です。現在の「家」は地面の上に基礎を作りその後に柱が建てられていますが、昔の建物の多くは地面に穴を掘り、その穴に柱を差し込んだで建てられていました。調査では柱そのものはなかなか発見されません。長い年月で朽ち果て「土」になってしまふからです。写真の中の矢印で示した部分が「柱」、その周りの土は柱が倒れないよう支えるために穴に入れ込まれたものです。

これまでの発見

はっけん

紀元前10,000年 紀元前300年 250年 710年 1,192年 1,600年

旧石器

縄文

弥生

古墳

奈良・平安

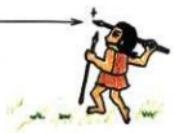
中世

近世

★十箇遺跡は国見町多比良馬場、土黒川沿いの水田地帯に広がる遺跡です。これまでの調査において数多くの発見がありました。

(旧石器時代)

★遺跡からの出土品で最も古いものは、約2万年前と考えられる旧石器時代の石器です。右の写真は旧石器人が狩りに使った「やり先」です。石製でしかも遠く佐賀県周辺でしか採取できない石材が使われています。はるか數十キロ離れた場所まで石器の材料を探しにいったのでしょうか？ それとも物々交換などで手に入れたのでしょうか？ いずれにしても当時の人々の生活を解き明かす上で欠かせない発見です。



(黒曜石の
やり先)

縄の模様



(梅ノ原式土器)



クイのあと

(発見された落とし穴)



(想像図)

(縄文時代)

★「縄」で模様をつけた土器片と狩りを行う際に掘られた「落とし穴」が発見されています。土器はその作り方や表面の模様から約7千年前のものと判明しています。このタイプの土器は九州一円で発見されますが、特に鹿児島を中心とした南九州で非常に多く発見されます。南から縄文文化を携えた縄文人たちが進出した証とも言われています。落とし穴は3箇所から発見されており、イノシシなどを獲っていたと考えられます。

(弥生時代)

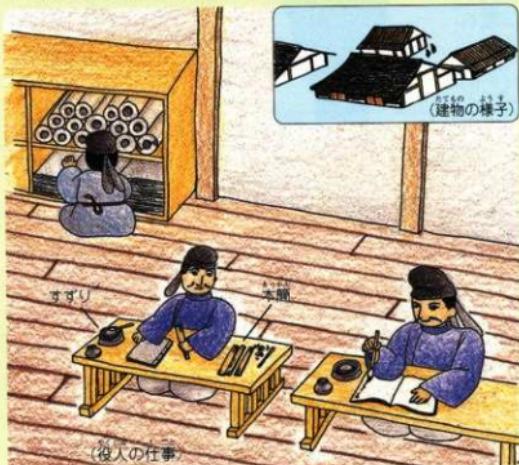
★壱岐「原の辻遺跡」や佐賀「吉野ヶ里遺跡」と同じ時代の、「環濠集落」と呼ばれる大規模な遺跡が発見されています。巨大な整穴住居や2重に掘られた堀（環濠）などから大量の土器が出土しています。その中には海を越えて遠く福岡や佐賀、熊本から運ばれたと考えられる土器も多く見つかっています。佐賀の吉野ヶ里遺跡とも交流があったのかも知れませんね。

★これらの発見から、活発な国見町の祖先の暮らし振りを垣間見ることができますね★

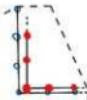


(十箇遺跡出土 弥生土器)

★今回の報告は約1,200年前の奈良時代の建物群や土器です。当時の日本は平城京や平安京など、の「奈良の都」を中心とした国家で、地方は国・郡・里などの地区に区分されていました。今ではいえば国・県、郡・里=市町村といったところでしょうか。当時の国見町は肥前国高来郡の範囲に入ります。肥前国は、おおむね現在の佐賀県・長崎県を合わせた範囲で高来郡は筑早市および島原半島を含めた範囲です。肥前国は9つの郡に分かれていますが、現在の長崎県には松浦郡・彼杵郡そして高来郡の3郡があり、各郡には政治や文化、産業の中心となる「郡衙」と呼ばれる大規模な施設がありました。郡衙はその郡内でもっとも発展した地域と考えられます。



右ページの写真を図にしたもののです。青が古い建物の柱。赤は新しい建物の柱。ほぼ同じ場所に建て替えられているのがわかります。



★調査結果やこれまでの研究成果を参考に郡衙の建物を復元してみました。郡衙とは今で言う「役所」。行政事務や司法、税の徴収などを行っていました。

（豆知識）当時の税金

現在はお金で税金を納めますが、当時は米や布など地域の産物が主な納稅物。そのほかにも、地方の公共工事で働いたり、兵士として働くことも住民に義務付けられていました。今と比べると厳しい負担が求められていたようですね。風水害で収穫が少ないとき、住民は葉や稗で飢えをしのいでいたという記録もあります。華やかな「奈良の都」の影で、地方では厳しい生活ぶりも見ることができます。

0 10m (建物群の実測図)



★左の図面は建物をはしらだんめんずさえる柱の断面図です。調査の結果柱の直径は約30cm！ みんなの家の柱の大きさは？

★遺跡では規則正しく並んだ大きな建物跡や建物を取り巻くような水路、そして大量の土器が発見されました。これまで県内では発見されたことのない大規模な奈良時代の遺跡が発見されたのです。建物の大きさやその配置、また、出土品の量やその種類から一般的な集落とは大きく様相が違います。さらには、周囲の遺跡にも、郡都と考えられる五万長者遺跡、多くの文字資料が発見された石原遺跡があり、今回発見された建物群が肥前国高来郡衙街の一部だと推測されました。近年の研究では、郡衙は1キロ四方を超える範囲にさまざまな機能を持った施設があった事が判明しています。最終ページの色を塗った遺跡は「郡衙に關係する遺物」が発見された遺跡です。広い範囲で発見されており、十園遺跡を中心に各地に郡衙に付属する建物があったと考えられます。

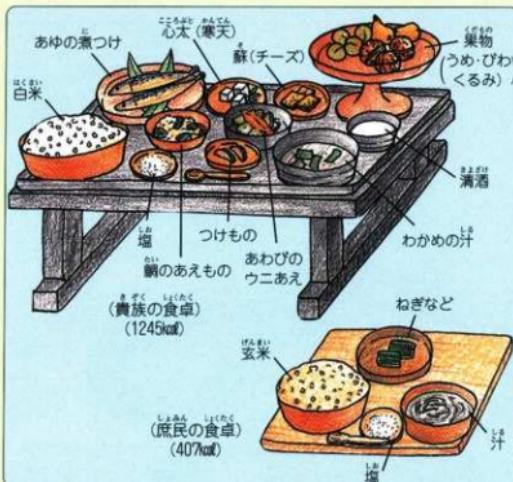


(建物群の空中写真)

★右の写真は発見された柱の断面写真です。中央の黒い部分が柱の痕跡、その周りの色の混ざった土は柱を支えるためのもの。



参考文献 1991「藤原宮と京」奈良国立文化財研究所
飛鳥藤原宮跡発掘調査部



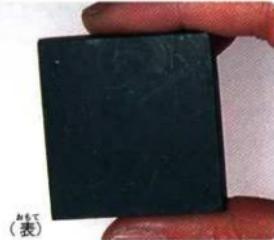
★発見された土器の中には日用品が多く含まれていました。郡衙には食事をつかさどる部署もあり、当時の食卓にはどんなものが並んでいたのでしょうか？

〔豆知識〕郡衙の役人

郡衙の人もさまざまな階級があります。十園遺跡出土品の中には高い位の役人の存在を示す品物も含まれています（次頁の石帯）。ただしそれはほんの一握り。多くは下級役人のようです。役人の給料も階級で大きく違います。いろいろな書物によれば、最上級の役人では年間数千万単位、最も位の低い役人では年間百万円前後。

せきたい
(石帶)

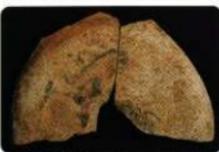
★右の写真は郡衙で働く役人が正装する時に身に付けるベルト飾りです。きれいに磨き上げられた石製の飾りを身上に着けられるのは位の高い人物の証。肥前国高来郡を治める貴族のものかも知れません。当時の衣装を復元してみました。国見町でも「奈良の都」に負けないくらい華やかな生活があったのかもしれません。



やくにん すがた
(役人の姿)

もじしりょう
(文字資料)

★行政事務を取り扱う郡衙周辺では文字資料が多く見つかります。土器や木簡に書かれたものなどです。
十園遺跡の周辺で
も土器に書かれた
文字がたくさん見
つかっています。



いしはら いせきしりょう
(石原遺跡出土「宮」)

かずおお
(数多くの土器)

★郡衙には多くの人々が集まります。当然日用品などの生活用具なども大量に必要になります。

右の写真は遺跡から発見された土器です。長崎県ではこの時代の土器を焼いた窯が発見されていません。出土品を観察すると熊本から海を越えてもたらされたものも多くありました。



（十園遺跡出土 奈良時代土器）

た い せ き その他の遺跡

紀元前10,000年 紀元前300年 250年 710年 1,192年 1,600年

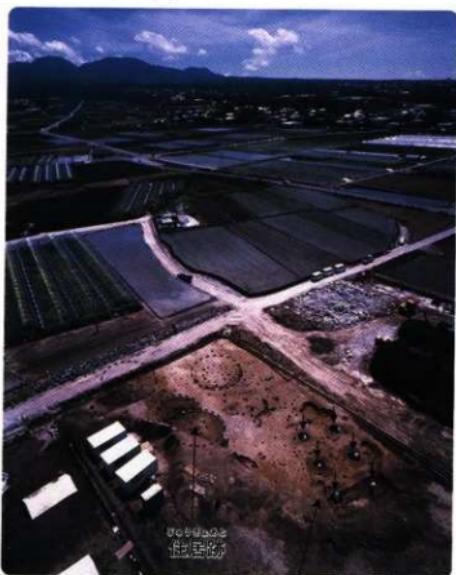
| | | | | | | |
|-----|----|----|----|-------|----|----|
| 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈良・平安 | 中世 | 近世 |
|-----|----|----|----|-------|----|----|

くにみことう じょうごのいせき
★国見町には十園遺跡のほかにも貴重な遺跡がたくさんあります。
ここではその一部を紹介したいと思います。

つくだい せき (佃)遺跡

こうじろがいさと うんぜんのうきうほんてんなんふがわ すいでんち
★神代東里(雲仙農協本店南側)の水田地
たいひろ いせき へいせい ねんはっけん
帯に広がる遺跡です。平成5年に発見され,
ほこうせいびじょく はくつき はくつき
圃場整備事業にともなって発掘調査を行いました。
その結果約2千年前の弥生時代の環
こうじょうらく はっけん
濠集落が発見されています。県内でも最大の
けんないさいだい
豊穴住居や2重の堀(環濠)などが発見され
ています。

みぎしゃしん いきよあと ともはっけん たてものあと
右の写真は住居跡と共に発見された建物跡
はしらこんじまき やしらぶん ひとなかはい
の柱の痕跡(矢印部分)です。人が中に入っているのが見えますか。調査の結果、柱の
おおきさは直径約50cm、柱を建てるために掘られた穴は直径1.3mもあります。弥生時代
たてものあと けんないさいだい
の建物跡としては県内では最大のものです。



(龍王遺跡 古墳上空写真)

りゅうおう いせき (龍王)遺跡

くにみちうがつこうにしがわ すいでんちたいひろ
★国見中学校西側の水田地帯に広がる、旧
せき じだい こふんじだい いせき
石器時代~古墳時代までの遺跡です。

ひだりしゃしん さくねんはっけん せんぼうこうえんふん
左の写真は昨年発見された前方後円墳で、
しまばらはんどう あづま もりやまとおつか こふん つ
島原半島では吾妻の守山大塚古墳に次いで2
ばんめはっけん てつき まがたま
番目の発見となりました。鉄器や勾玉などと
ともおおきさはっけん けんりく
共に多くの土器が発見されています。権力と
けんりよく そな けんりく
財力を備えた豪族のお墓です。



(古墳出土の土器)

国見町遺跡地図



遺産の修復
昭和13年春の高木古墳は通称「先の古墳」と呼ばれています。封土は削り落としてしまって基壇部石室や内部を覗きが出来ており、石室内には遺物のあとが残っています。この古墳は昭和13年に当時九州大学・小笠原寅次郎教授（現鹿児島大・博物館院）により考古学的に行われ、馬具・土器などが多く出土し、その後も続いた時代は6世紀中古から、そのうち特に後半で追跡が行われたと考るる。またこの遺跡は昭和41年史跡に保護されています。なお、昭和64年1月13日史跡指定を行っています。



■五万長者達跡の瓦
地図に18番の「五万長者達跡跡」から見見された軒丸瓦と瓦平瓦で、奈良時代～平安時代ごろの寺院跡または政府跡のものだと言われています。瓦の大きさや形から、かなり大きな建物がこの辺りにあったことは間違いないようですが、詳しい内容はまだ判明しません。

この道路地図は、平成7年4月1日現在のもので、まだまだ多くの未発見・未認知の道路が存在しています。

*この追跡地図は、平成26年3月奈良県教育委員会が行なった「長崎市遠鉄相場」を基調として、その後発見された追跡および町内の文化財等を付加して、既存の教育用地図の中綴したもの。

*追跡地図は既に複数枚手渡しましたが、おおよその範囲を示すもので、地上やその周辺も追跡や考察する場所になります。また、図中に表示してない歩道や車道等も、外野の移動手段や車道・ロード等によってその地域内において太閤橋を包囲する土丸として広く認識されている場合があります。

この種の地盤に水を貯留することは、既往歴あるものに多くは危険である土地についても沼泽として取り扱われます。

国見町発掘調査速報（第3号）2005.03

十四遺跡の発掘調査 2

発行日 2005.03.31

発行／国見町教育委員会

長崎県南高来郡国見町土黒甲1079

TEL 0957-78-1100

印刷／(株)昭和堂